

平成 30 年度 第 2 回 教育課程編成委員会 報告書

1. 日時：平成 30 年 3 月 27 日（火）16 時 00 分～17 時 00 分
2. 場所：日本福祉教育専門学校 高田校舎 221 教室
3. 出席者：委員 松山 慎司（社会福祉法人西東京市社会福祉協議会 専門員）
委員 渡辺 裕介（公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会）
委員 小内 仁子（東京都言語聴覚士会 学術局部員）
委員 金川 宗正（社会福祉法人敬心福祉会池袋敬心苑 施設長）
委員 八子 久美子（介護福祉学科 学科長）
委員 中山 剛志（言語聴覚療法学科 学科長）
委員 平野 夏子（社会福祉学科 学科長）
委員 中島 たまみ（ソーシャル・ケア学科 教員）
事務局 寺澤 美彦（教務副部長）
事務局 白川 耕一（専任教員）
事務局 中嶋 裕之（事務次長）
事務局 鈴木 達也（教務課）

4. 議事

冒頭に各学科の取り組みについて説明をした後、意見交換を行った。

各学科の取り組みについて

介護福祉学科（八子）

介護福祉学科では、未来の介護を先取り、先進的なサービスを実施している 5 企業と連携して行う「カイゴのミライ」という授業を今年度から実施している。1 年次の後期は導入偏ということで、5 企業に 3 コマずつ授業を行っていただいた。受講した学生は、次年度により深く学びたいと思う企業の授業を選択し、学びを深めていく。

このプログラムの効果により、介護福祉学科とソーシャル・ケア学科の入学者数が大幅に改善されている。（中嶋）

言語聴覚療法学科（中山）

臨床現場では言語聴覚士の人材が不足しており、学科としては即戦力となりうる人材を育成したいという思いがある。

日々の講義では、教員から学生に対する一方的な座学ではなく、グループワークを中心とした問題解決型の学習方法を多く取り入れて授業展開をしており、教員から「教える」授業から、学生に「考えさせる」授業に誘導していくような授業展開にかわっている。

但し、上記のような学習方法だけでは十分な学習理解に結びつかない為、座学で学んだ内容が生きた知識に繋がるよう、教員が引率して実際の臨床現場を見学する機会を多く作ることに注力している。

現在、臨床現場では嚥下障害に対する取り組みが求められている。医師・看護師・栄養士等とチームで取り組む必要があることから、学科ではチームアプローチ論に関する講義に注力している。

臨床現場に教員と一緒にいけるという事は、学生にとっては大変良い経験となるのではないかと（小内）

職業人として、憧れでもいいので明確なイメージを持てるとモチベーションに繋がる。（小内）

介護の実習でも、教員が実習巡回時に施設の利用者さんに対する対応等を見せることにより、学生の学びに繋がっている。教員も積極的に現場に入らせていただきたい。（八子）

昨年度の会議の場で、2年間のタイトなカリキュラムの中、学生を卒業まで指導することが大変だと仰っていましたが、今年度の学生の状況はいかがでしょうか（松山）

非常にタイトなスケジュールのため厳しいが、臨床現場を見学させなければ理解に繋がらないが学生がいるため、可能な限り見学実習を実施している。（中山）

学生の中には指示通りにしか動けない者もいるが、教員が実際に気づき与えることにより理解が深まる事があるのでは。（中嶋）

社会福祉学科（平野）

手話通訳や音楽療法の知識だけではなく、社会福祉の知識も学ぶことが出来る。

音楽療法コースについては2年間で60日以上現場実習を実施しており、卒業後、現場で生きる即戦力が身につくプログラムとなっている。

手話通訳コースについては、聞こえない講師の授業を多く取り入れ、実践的な講義を実施している。

手話コースの学生が手話関連の施設に就職する学生が増えており、うれしく思っている。

音楽療法コースについても、音楽療法を実践できる施設が増えてきており、在学中に得た知識を現場で活用しやすい環境となってきている。

専門的な分野のため枠が少ないにもかかわらず、手話関連の施設に就職できたことはすばらしい。（金川）

卒業生が施設で育ってきている。その影響で就職しやすくなってきているのかもしれない。（平野）

ソーシャル・ケア学科（中島）

就職に関する報告

今までは障害者施設や社会福祉協議会への就職が多かったが、今年はほとんどの学生が高齢者の介護施設に就職した。ソーシャル・ケア学科は4年制だが、後半の2年間で社会福祉士の領域を学ぶ中で、将来的には相談業務に就きたいが、まずは介護現場を知ることの重要性を感じ取り、今回のような就職状況となったのではと考える。

教育内容について

学生が希望する分野への実習が可能となるよう、実習開拓を進めている。

学生は、4年間の在学中に11箇所の施設等で実習等を行っているが、今年度は児童・障害分野での支援をしたいという学生が増えたため、新たに民間会社が経営している放課後デイサービスと契約を結び、1年次の夏休みに見学実習をおこなった。

利用者のほとんどが発達障害・知的障害者という中で、一般小学校の中でいかに関わっているか、支援スタッフの中で社会マナーを学んでいく。

国家試験について

今年度から介護福祉士国家試験が必須となり、社会福祉士国家試験とのダブル受験となった。4年間の学習期間の中で、いかにモチベーションを保ちながら二つの国家資格取得に向けさせるかが課題と感じている。

また、国家試験取得だけでなく、卒業後社会に出たときに簡単に離職しないような知識と技術を修得させる為の工夫を日々検討している。（中島）

4年間、この会議に出席させていただいているが、社会福祉士に受かる方が少ないということが議論の中心となっていたが、今回、ダブル受験という中で半数以上の学生が合格したことはすごいと思う（松山）

国家試験対策については、通常授業の中や受験対策コース、直前模擬試験等を実施している。それぞれ科目のエキスパートが担当している為、今回の合格に繋がっているのではないかとまた、クラス内の競争意識も働いている。（中島）

介護を経験して、いずれ相談職に就くという意欲の学生がいるというが、すごい心がけだと思います。（松山）

学生自身が、まずは介護現場に就職し、いずれは相談援助に就きたいというキャリアプランが、在学中に10の施設を体験することにより明確になっているといった状況が作れている（中島）

全体を通して

いい取り組みを実施されているのでこれからも継続していただきたい。施設側としては出来る限りの協力はさせていただく。（金川）

学生が増えているということは良い取り組みをされていることだと思うので、継続していただきたい。（松山）

5. おわりに

委員の意見を基に、今後も学校運営に対して改善を図っていききたい。次年度第1回の委員会でも引き続きご協力を願いたい。（寺澤）

以上